

Ⅲ 高大接続における、生徒の多様な 資質・能力の評価の在り方

高等学校における「必履修教科・科目」と「共通必履修科目」等について (平成21年学習指導要領改訂の考え方)

※「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月17日中央教育審議会答申)及び「高等学校学習指導要領解説総則編」(平成21年11月)より

【改訂の考え方】

高校生に最低限必要な知識・技能と教養の幅を確保するという「必履修教科・科目」の趣旨(共通性)と学校の創意工夫を生かすための裁量や生徒の選択の幅の拡大(多様性)とのバランスを図る。

高等学校における教科・科目等の構成について

1 教科・科目

- ①必履修教科・科目(共通必履修科目を含む)
- ②各学科に共通する教科・科目のうち必履修教科・科目以外の教科・科目
- ③学校設定教科・科目:地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、各学校で設定する各学科に共通する教科・科目以外の教科・科目 *卒業単位数に含めることができるのは20単位以内

2 総合的な学習の時間(すべての生徒に履修させる必要)

3 特別活動(ホームルーム活動<原則年間35単位時間以上>、生徒会活動及び学校行事から構成)

※ 卒業までに修得させる単位数は74単位以上

※ 学校においては、卒業までに修得させる単位数を定め、校長は、当該単位数を修得した者で、特別活動の成果がその目標からみて満足できると認められるものについて、高等学校の全課程の修了を認定。

「必履修教科・科目」について

- 学習指導要領に定める高等学校の「必履修教科・科目」(すべての生徒に履修させる教科・科目)は、「高等学校とは何か」ということを学習内容の面から国が示したもの。
- 共通性と多様性のバランスに配慮し、各「必履修教科・科目」の単位数を原則として改訂前より増加させないこととした。(合計で最低31単位)

「共通必履修科目」について

- 学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語、数学、外国語の必履修科目については、すべての高校生が共通に履修する「共通必履修科目」を設けることで、高等学校の教育課程の共通性を高めることとした。 20
- 具体的には、「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を「共通必履修科目」として設定。

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

[平成21年告示]

[平成11年告示]

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
	科学と人間生活	2	
物理基礎	2		
物理	4		
化学基礎	2		
化学	4		
生物基礎	2		
生物	4		
地学基礎	2		
地学	4		
理科課題研究	1		

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語表現Ⅰ	2	○
	国語表現Ⅱ	2	
	国語総合	4	
	現代文	4	
	古典	4	
	古典講読	2	
地理歴史	世界史A	2	○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学基礎	2	○
	数学Ⅰ	3	
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	理科基礎	2	2科目（「理科基礎」・「理科総合A」又は「理科総合B」を少なくとも1科目含む。）
	理科総合A	2	
	理科総合B	2	
	物理Ⅰ	3	
	物理Ⅱ	3	
	化学Ⅰ	3	
	化学Ⅱ	3	
	生物Ⅰ	3	
	生物Ⅱ	3	
	地学Ⅰ	3	
地学Ⅱ	3		

[平成21年告示]

[平成11年告示]

教科	科目	標準単位数	必履修科目
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
書道Ⅲ	2		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2		
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	○
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで可

教科	科目	標準単位数	必履修科目
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
書道Ⅲ	2		
外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	○
	オーラル・コミュニケーションⅡ	4	
	英語Ⅰ	3	
	英語Ⅱ	4	
	リーディング	4	
	ライティング	4	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
	生活技術	4	
情報	情報A	2	○
	情報B	2	
	情報C	2	
総合的な学習の時間		3~6	○

※ 赤字は共通必履修科目

高等学校における学習評価について

学習評価の意義・目的

- 生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要〔指導と評価の一体化〕
- 新学習指導要領においてもきめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価を引き続き実施

生徒指導要録における学習評価(主なポイント)

各教科・科目の評定

- 高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価(5～1の5段階)
 - 評定に当たっては、観点による評価(「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」)を十分踏まえる
- ※ 高等学校の指導要録の参考様式には、観点別学習状況の記載欄を設けていない
(生徒の特性、進路等に応じて多様な教育課程が編成されていることや、高等学校の指導要録の現状を考慮して、大枠のみを示している)
- ※ 都道府県教育委員会等において、指導要録に観点別学習状況を記載できるようにすることも有効な手段

総合所見及び指導上参考となる諸事項

- 生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述
 - ① 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
 - ② 行動に関する所見
 - ③ 進路指導に関する事項
 - ④ 取得資格
 - ⑤ 生徒が就職している場合の事業所
 - ⑥ 生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査に関する記録など
 - ⑦ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

(参考) 観点による評価

- 通知に示した各教科の評価の観点及びその趣旨を十分踏まえながら、それぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方を工夫
- 単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において、「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価
- 学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択



新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点

「関心・意欲・態度」

「思考・判断・表現」

「技能」

「知識・理解」

「関心・意欲・態度」・・・各教科・科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価

「思考・判断・表現」・・・それぞれの教科・科目の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価

「技能」・・・各教科・科目において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価

「知識・理解」・・・各教科・科目において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けているかどうかを評価

※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能



「技能」

及び

「知識・理解」

で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等



「思考・判断・表現」

で評価

主体的に学習に取り組む態度



「関心・意欲・態度」

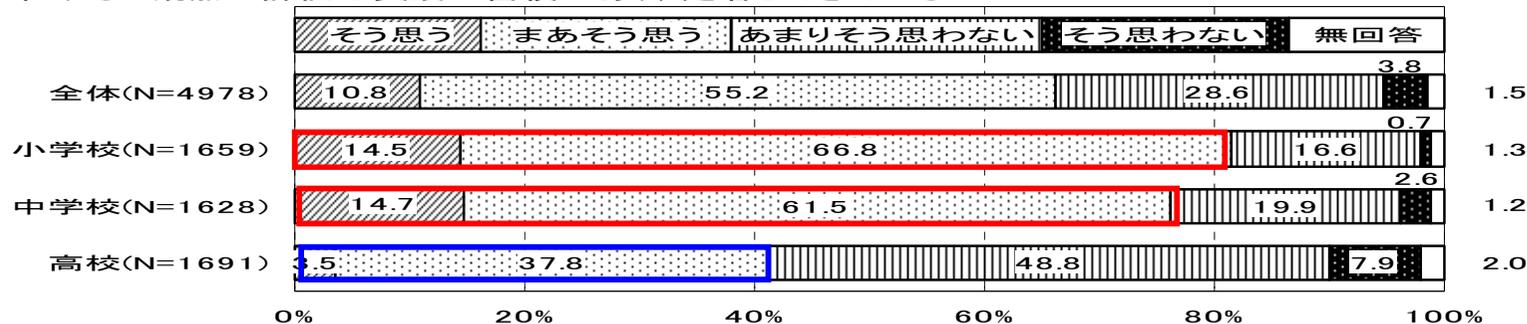
で評価

高等学校における学習評価の現状について

(「学習指導と学習評価に対する意識調査」平成21年度文部科学省委託調査より抜粋)

4観点の評価の定着に関する小・中・高等学校の教師の意識の比較

いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている

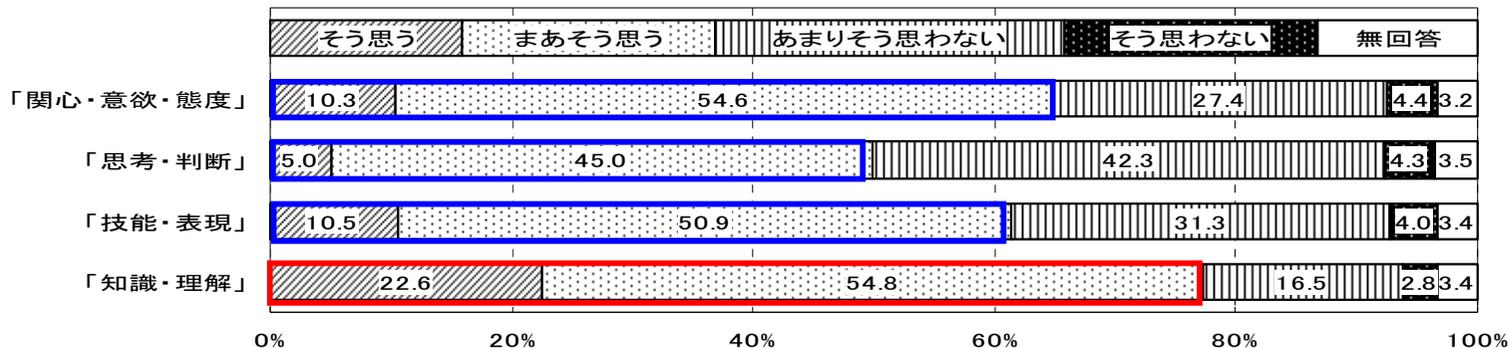


小学校教師: 約81%
中学校教師: 約76%
高等学校教師: 約41%

いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、小中学校では、定着しているが、高等学校は状況が異なる

観点別学習状況の評価の実施に関する高等学校の教師の意識 (各観点毎の比較)

観点別学習状況の評価の実施状況 [高校(N=1691)]

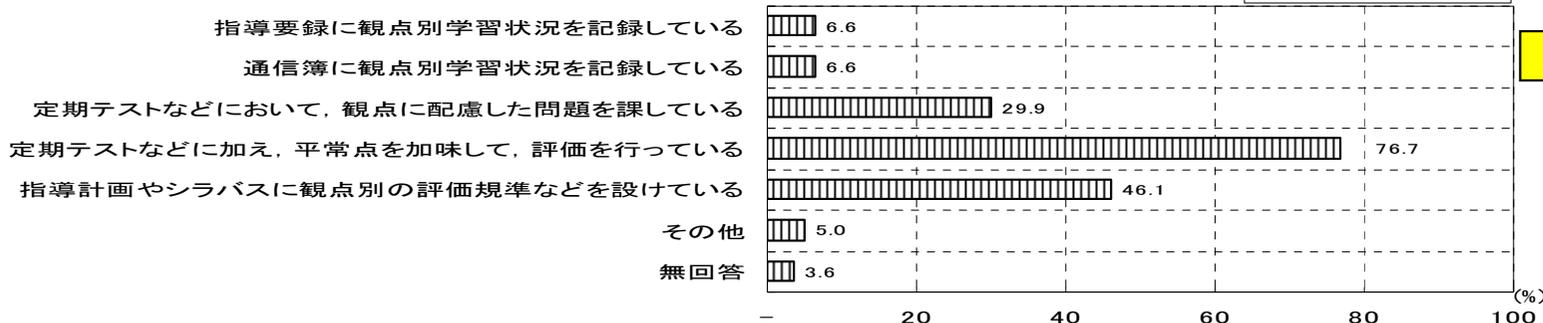


関心・意欲・態度: 約65%
思考・判断: 約50%
技能・表現: 約61%
知識・理解: 約77%

「知識・理解」は約8割の教員が円滑に実施していると回答している一方で、「思考・判断」は約半数の教員が円滑に実施できていないと回答

高等学校における観点別学習状況の評価の実施状況

所属学校における観点別学習状況の評価の実施状況(高校のみ)



「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」教師は約46%

「指導要録」や「通信簿」に観点別学習状況を記録している教師は約7%

高等学校では、小・中学校ほど観点別学習状況の評価が定着していない

パフォーマンス評価について

○ 知識やスキルを使いこなす(活用する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)

1. パフォーマンス課題

- ・様々な知識やスキルを総合して使いこなす(活用する)ことを求めるような、複雑な課題。
- ・具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題。

2. ポートフォリオ評価

パフォーマンス評価の方法の一つ

ポートフォリオ: 学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの

ポートフォリオ評価法: ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

ルーブリックについて (1)

- 目標に準拠した評価のための基準の作成方法であり、学生が何を学修するのかを示す評価規準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクス形式での評価指標。
- 記述により達成水準等が明確化されることにより、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。
- コースや授業科目、課題（レポート）などの単位で設定することができる。

○課程についてのルーブリックの例

関西国際大学 コモンルーブリック(リサーチ) 2年生秋学期～(上位学年用)

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、部分的にしか示せていない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究手法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究方法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについての記述しかできていない。

ルーブリックについて (2) 【アメリカの例】

○科目についてのルーブリックの例

米国ポートランド州立大学「SBA490-Research Foundations」のLiterature Review ルーブリック

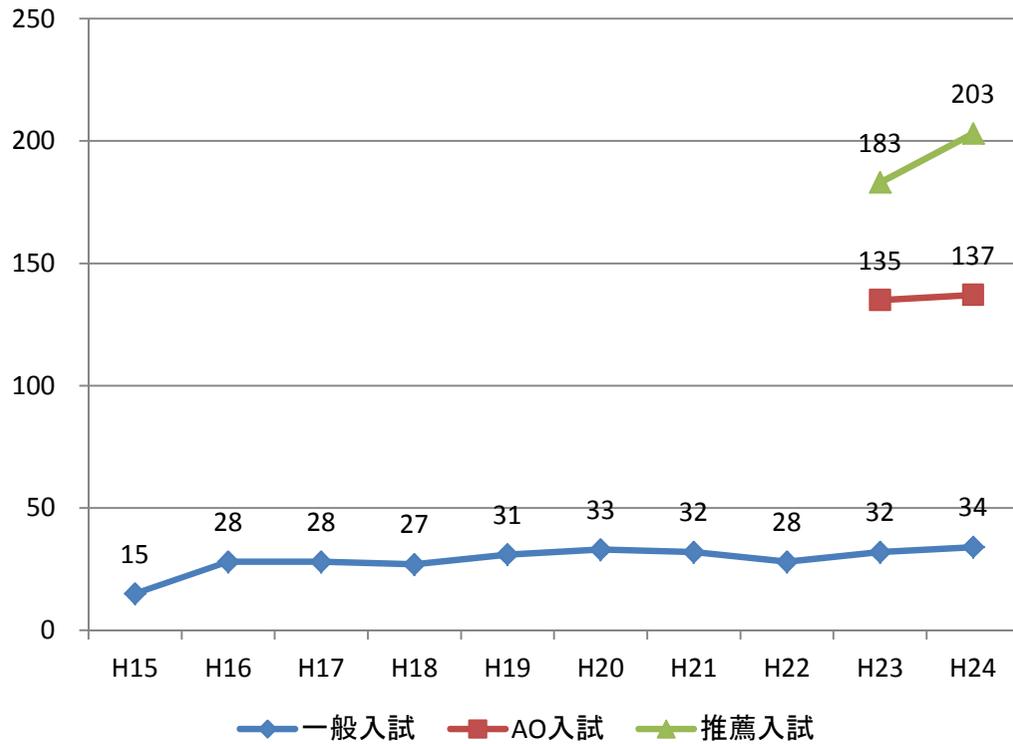
TASK DESCRIPTION : You are to find at least 10 research articles related to your Senior project topic. This paper will lead to the development of your Senior research project to be completed in SBA 491.

	Exceeds Expectations(4)	3	2	Needs substantial improvement(1)
Problem	Introductory paragraph describes the problem clearly. Introduction engages reader with problem. Many details and descriptive words used. Thesis is clear in first few paragraphs.	Problem clearly stated. Attempt at engaging the reader, but not persuasive. There is clear in first few paragraphs.	Problem was minor subject in course. Vague description of problem. Weak, not persuasive thesis statement.	Problem not relate to any ideas in course. No clear introduction to paper, just starts with literature review.
Research articles	All peer-reviewed references At least 10 references All research Variety of journals used	Mostly peer-reviewed 8-10 references Mostly research articles.	A few peer-reviewed 5-8 references Some books included	Mostly books and magazines used. 1-5 references
Flow	Arranges ideas from articles in a logical way. Judicious use of information from articles to make case. Organization of ideas from articles evident. Transition sentences used. Paragraphs have topic sentences.	Mostly logical flow from idea to idea. Organization evident with some gaps. Some sections not have transition sentences. Paragraphs have topic sentences.	Difficult to follow line of thinking from paragraph to paragraph. Careless use of information from articles. Paragraphs lack topic sentences & transitions.	Difficult to follow line of thinking. Ideas from articles not in writer's own words. Choppy to read aloud. Paragraphs lack topic sentences & transitions.
Conclusion	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Relates closely to problem through thesis statement	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Inferred link to problem.	No synthesis. Problem not mentioned.	No synthesis. Problem not mentioned.
Writing conventions	Perfect APA(※) formatting in text and in reference list. 1 grammatical error.	2-3 minor errors in APA formatting. 2-3 grammatical errors.	Noticeable lack of attention to APA. Grammatical errors interfere with reading.	No APA formatting. Many grammatical errors on every page make reading difficult.

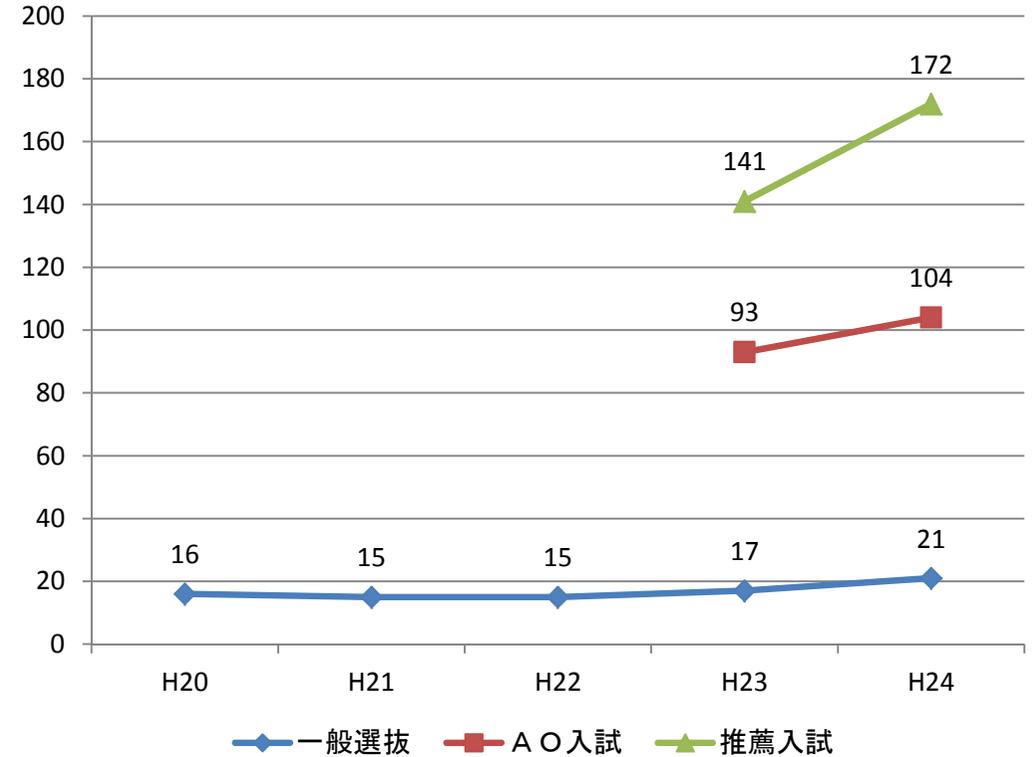
(※) APA : American Psychological Association

大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用状況(推移)

<語学関連>
(大学数)



<語学以外>
(大学数)



文部科学省大学入試室調べ

1. 語学関係(英語)

実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、IELTS、国際連合公用語英語検定、ケンブリッジ大学一般英語検定、GTEC、日商ビジネス英語検定、全商英語検定、工業英語能力検定、全工・リスニング英語検定 等

2. 語学関係(英語以外)

実用フランス語技能検定試験、フランス国民教育省認定フランス語資格試験(DELTA、DALF)、ドイツ語技能検定試験、スペイン語技能検定、スペイン語検定試験(DELE)、ロシア語能力検定試験、実用中国語技能検定試験、中国語コミュニケーション能力検定、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、ハングル能力検定試験、韓国語能力試験 等

3. その他

全商各種検定(情報処理、商業経済等)、実用数学技能検定、経産省ITパスポート試験、秘書技能検定、全工各種検定(情報技術、パソコン利用技術等、ジュニアマイスター顕彰)、日商各種検定(販売士、PC、珠算等)、全経簿記能力検定試験、語彙・読解力検定、マイクロソフトオフィススペシャリスト、パソコン検定、情報検定、珠算能力検定、全珠連珠算検定、歴史能力検定、世界遺産検定、ヤマハ音楽能力検定、食物調理技術検定、調理師免許 等

概要

学習指導要領に示された教科「商業」の科目のうち検定試験として対応できる科目において、各科目の目標を達成することを目指して、商業高校の生徒の技術や専門知識の向上を図るために実施。

生徒の学習状況に応じて級が設定され、ふつう1年生で3～2級、2・3年生で2～1級合格を目指す。

検定の種類(①日時・回数 ②受検料 ③試験内容 ④級位)

(1) 珠算・電卓実務検定試験

①6月・11月の2回 ②800円 ③実技 ④1級～6級

(2) 簿記実務検定試験

①6月・1月の2回 ②1000円 ③筆記 ④1級～3級

(3) ビジネス文書実務検定試験

①6月・11月・2月の3回 ②500円～1000円 ③筆記・実技 ④1級～4級

(4) 英語検定試験

①9月・12月の2回 ②900円～1000円 ③筆記・リスニング ④1級～4級

(5) 情報処理検定試験

①9月・1月の2回 ②1000円～1500円 ③筆記・実技 ④1級～3級

(6) 商業経済検定試験

①2月の1回 ②1000円 ③筆記 ④1級～3級

(7) 会計実務検定試験

①10月の1回 ②1500円 ③筆記 ④級位無

(8) ビジネスコミュニケーション検定試験

①7月の1回 ②1000円 ③筆記・面接 ④級位無

ジュニアマイスター顕彰制度

＜主催＞全国工業高等学校長協会

＜目的＞資格の取得や競技会等での成果を表彰することにより、生徒の意欲と技術・技能の向上を目的とする。

＜顕彰の方法＞主に工業教育に関わる資格、競技会、コンクール等200項目程度を選定し、その難易度や重要度を点数化し、表(区分表)を作成。

30点以上にはジュニアマイスターシルバー

45点以上にはジュニアマイスターゴールド

の称号を外部委員からなる認定委員会が学校長から申請のあった生徒に対し付与する。

＜主な資格や競技会＞

ランク	ポイント	主な資格や競技会	
S	30	電気主任技術者3種	高校生ものづくりコンテスト全国大会1位
A	20	各職種技能士2級	若年者ものづくり競技大会1位
B	12	品質管理検定2級	
C	7	電気工事士2種	高校生ものづくり県大会優勝
D	4	危険物取扱者乙種4類	高校生ものづくり大会県大会入賞
E	2	アマチュア無線技士3級	各種技能系競技会県大会入賞
F	1	ガス溶接等技能講習	

校長会等が実施する検定試験

実施団体等	No.	検定名	段級位等	検定日
日本農業技術検定協会	1	日本農業技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	標準テスト	—	2月
	2	計算技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	情報技術検定	1, 2, 3級	1月, 6月
	4	基礎製図検定	—	9月
	5	パソコン利用技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
	6	機械製図検定	—	6月
	7	リスニング英語検定	1, 2, 3級	10月
	8	初級CAD検定	—	7月
	9	グラフィックデザイン検定	1, 2, 3級	1月
(公財)全国商業高等学校協会	1	ビジネス文書実務検定試験	1, 2, 3, 4級(速記部門について、5段～初段の段位認定あり)	6月, 11月, 2月
	2	情報処理検定試験	1, 2, 3級	1月, 9月
	3	珠算・電卓実務検定試験	1, 2, 3, 4, 5, 6級	6月, 11月
	4	簿記実務検定試験	1, 2, 3級	1月, 6月
	5	英語検定試験	1, 2, 3, 4級	9月, 12月
	6	商業経済検定試験	1, 2, 3級	2月
	7	会計実務検定	財務諸表論、財務諸表分析	10月
	8	ビジネスコミュニケーション検定試験	—	7月
全国水産高等学校長協会	1	高等学校水産海洋技術検定	—	1～2月
	2	高等学校漁業技術検定	—	7～9月, 12～2月
	3	高等学校通信技術検定	—	1月
	4	高等学校海洋情報技術検定	1, 2級	2月, 7月
	5	高等学校栽培漁業技術検定	1, 2級	6月, 12月
	6	高等学校潜水技術検定	上, 1, 2, 3級	7～8月, 11～12月
	7	高等学校食品技能検定	1, 2, 3類	1月, 7月
	8	HACCP基本技能検定	—	1月, 7月
	9	高等学校エンジン技術検定	1, 2級	7～8月, 12～2月
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	1	全国高等学校家庭科技術検定(被服)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	2	全国高等学校家庭科技術検定(食物)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	全国高等学校家庭科保育技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 10月

※看護、福祉、情報については、校長会等が実施する検定試験はないが、それぞれ関係の国家資格や国家試験等を目指している。

校長会等が実施する生徒の発表大会等

実施団体等	No.	大会等名	種類等	開催月
日本学校農業クラブ連盟	1	日本学校農業クラブ全国大会	プロジェクト発表会、意見発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会	10月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	全国高等学校ロボット競技大会		11月
	2	高校生ものづくりコンテスト全国大会	旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量	11月
	3	高校生ロボット相撲全国大会		11月
	4	高校生技術・アイデアコンテスト		1月
	5	高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会		2月
	6	マイコンカーラリー		1月
	7	全国製図コンクール		12月
全国商業高等学校長協会	1	全国高等学校簿記コンクール		7月
	2	全国高等学校情報処理競技大会		7月
	3	全国高等学校珠算・電卓競技大会		8月
	4	全国高等学校ワープロ競技大会		8月
	5	全商プログラミング・コンテスト		9月
	6	全国高等学校生徒商業研究発表大会		11月
	7	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト		1月
全国水産高等学校長協会	1	全国水産・海洋高等学校ダイビング技能コンテスト		8月
	2	全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会		12月
	3	全国水産・海洋高等学校カッターレース大会		7月
	4	全国水産・海洋高等学校食品技能コンテスト全国大会		7月
	5	全国水産・海洋高等学校フィッシング技能コンテスト		7月
全国高等学校家庭クラブ連盟	1	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動	8月